■　■　■

□本誌號を重ぬることこゝに三十二、編者の多忙と經濟に餘裕なきとにより何等向上進歩の跡なきに拘はらず、多年愛讀を給はりし讀者に深く御禮申上候

□昨年は日本水彩畫會の創立あり、水彩畫研究所の新設あり、旁々雜誌の方面に多く力を致すこと能はざりしが、それ等の事業も追々整理相つき候に付、本年よりは本誌の發展に向つて一同力を盡す計畫に御座候

□其發展の方法については、讀者諸君の御助力を仰ぐこと多かるべく、委細は次號に發表可致候

□本號の口繪は甲州日野春より見たる富士山にして、原畫**ワットマン**九ッ切に御座候

□次號には畔川氏の『藝術小言』と云ふ有益なる講話、石川欽一郎の『**アレフレッド・イースト**氏の寫生談、霧鷗生の『水』の續稿、大下氏の靜物畫の話のつゞきを掲載すべし

□中繪應募者のうち、外山氏の分は色淋しく候へ共圖柄面白ければ寫眞版と致候、住田氏の分はそのうち石版に附し可申候、他の諸君のは當分採用致兼候

□中繪は季節に不拘、又圖案と繪畫とは不問候間、奮つて御投稿被下度候

近事雜聞

△日本水彩畫會研究所々員の有志十餘名は、昨年十一月二十三日程ヶ谷方面に遠足寫生會を催し、横濱支部所員と共に終日寫生を試み夜に入つて歸京したり

△第一高等學校内の畫學會にては、十二月四日水彩畫の小展覽會を催したり

△日本水彩畫會研究所にては、本月より人體寫生部を開始する筈なり

△太平洋畫會にては、來る十一日午後三時より新年宴會を開くべしと

■日本水彩畫會研究所
東京小石川區小日向服部坂下

■仝　安中支部
群馬縣安中町根岸方

■仝　横濱支部
神奈川縣保土ヶ谷町小學校

問に答ふ

注意　水彩畫に關係あるのに限る　◎の印は答。一般に對して益なきものは戴せず

■『みづゑ』初號はい　再版となるや、又他に缺本ありや（廣島N H）◎初號再版は品切三版は多數の申込なければ着手する事能はず、又第三、第四、第五、第六は缺第七は殘本僅少なり■**一**　**エッチング**の意を知りたし、**二**　畔川氏とは何氏の號にや**三**　吉田藤尾女史は油繪專門にや又は水彩畫の方なるや（N・S生）◎**一**　畫家自身が彫刻せし銅版畫**二**　書狀にて問合されよ**三**　將來水彩畫專門なりときく■水彩風景畫帖（大下先生筆）第一は品切に候哉、又肉筆臨本は臨今にても御頒ちに相成候哉（赤坂川邑生）◎殘本あり、又肉筆臨本も頒つべし

讀者の領分

注意　長文及水彩畫に無關係のものは御斷り。◎印は編者の答。投書の要點のみを掲ぐ

■**アルフレッド、イースト**先生の寫生談は何遍讀んでも興がつきぬ、何卒同先生の作を『みづゑ』に揚げられたし、次に**カット**には先哲の格言を擧げて下さい「藝術は不羈自由の必胸より滋養品を吸收して成長す」千萬人の味方を得たやうだ（CF生）■『版のなぐさみ』續稿をドーゾ（未來の彫刻家）